■「帯状疱疹」（たいじょうほうしん）

　みなさんのほとんどの方が、子どもの頃に水疱瘡（みずぼうそう）にかかったことがあると思います。

この水疱瘡の原因は、ヘルペスウィルスです。

このヘルペスウィルスは、水疱瘡が治った後も神経の中に潜伏し、体力が弱って免疫力が低下して暴れ出すと、肋間神経や後頭神経、三叉神経などの末梢神経を傷めつけて、帯状疱疹として発症するのです。

そうなると、大変な痛みが発生します。

重症型の場合、この痛みは地獄の苦しみだと言われています。

　ヘルペスウィルスは水疱瘡にかかったことがあれば、ほぼ全員が持っているのですが、帯状疱疹は、昔はお年寄りの病気でした。

また、一度かかれば、二度はかからないと言われていました。

しかし、今は若い人でも発症しますし、再度発症することも珍しくありません。

病院での治療は薬物療法が主体で、レーザー治療なども行なうようですが、現在のところ、根本的な治療法はまだ確立されていないようです。

　実は、この帯状疱疹は、ズレで圧迫された末梢神経に発症しており、ズレと密接に関係している病気なのです。

ズレていても、免疫力が極端に低下していなければ単なる神経痛として発症します。

しかし、ズレによって常に神経が圧迫されて弱ってくれば、神経細胞自体も弱ってきてますので、細胞の免疫力も低下してしまいます。

そうなると、ヘルペスウィルスが暴れ出すようになるのです。

このように、一旦ウィルスが暴れ出して帯状疱疹が発症してからでは、皮膚に水疱があるので、体の外側から手技でズレを矯正することができません。

水疱がおさまってからの後遺症による神経痛であれば、ズレを矯正することで症状を緩和できますが、暴れている最中のウィルスの勢いには、矯正も追いつかないのです。

**　ズレ自体は、物理的にズレる場合もありますが、ねじれ現象によるズレのほうが圧倒的に頻繁に発生します。**